



平成27年度定時総会開催

ごあいさつ

理事長 丹下 正彦



(元警察庁情報通信局長)

平成27年度定時総会が5月25日開催され、全ての議案に対し会員皆様のご同意を得られ無事終えることができ御礼申し上げます。この協会も発足以来6年目を迎えて、5月末現在201社、2個人の方々に会員になっていただいております。交通信号工事士は2,000名を超えて誕生しております。協会の発足以来皆様のご支援、ご協力のおかげで順調に業務を推進してまいりました。

昨年度から定款で規定する重要事業である「交通信号工事士技能検定」が会員以外の方にも受験していただけるようになりました。また、「交通信号工事施工ハンドブック」を関係機関等に頒布しました。本年度は、保守編、工事設計編、安全管理篇の編纂に取り組んでおります。さらに、技術講習会や交通信号工事競技会である交通信号甲子園の開催など、協会の掲げた重点目標を着実に推進しております。

今後は、これらの重点施策を着実に推進し発展させ、これらの本来の意義や有用性を広く世間に訴えてまいります。

また、交通信号工事に直接的に携わる皆様方におかれましてはヘルメットの側面に「TSEシール」を貼付したり、「第2種交通信号工事士」を名刺に記載して、交通信号工事士としての自信と誇りをもって作業に従事していただき、このようなことが、世間、行政の方々に理解され信頼されることになると思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成27年度定時総会の開催

平成27年5月25日(月)東京都台東区 株式会社オーラムにおいて、平成27年度定時総会と懇親会が開催されました。定時総会に先立ち、住友電気システムソリューション株式会社ITS開発センター長岩本健氏の講演が開催され、会員等50名以上の協会員が受講されました。

定時総会は、丹下正彦理事長の挨拶の後、平成26年度事業報告、収支決算報告及び監査報告、定款の一部改正に関する件、理事監事任期満了に伴う新理事・監事の選任に関する件が承認されました。

最後に平成27年度事業計画及び収支予算についての事務局からの報告があり、無事定時総会が終了しました。

定時総会終了後、多数の会員の方々と講演の講師を交えて懇親会が開催されました。定時総会で配布された資料は、ホームページの「会員専用ページ」でご覧いただけます。

理事長再任挨拶要旨

ただ今理事会の推薦をいただき、引き続き理事長を務めることとなりました。

協会発足以来6年に亘り、この協会の運営に各理事、監事の皆様方はじめ会員の皆様方のご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。おかげさまで当初の重点事業も軌道に乗り、定常業務として推進できるようになりました。

今後は、新しく選任された理事、監事の皆様方と一丸となって、会員から期待される事業を展開してゆくとともに、信号工事技術の技術的独立性を世間に容認されるよう活動し、業界の健全化と発展に寄与していきたいと考えております。

また、新任の理事、監事の方は、各地域の中心的な存在として各地域の会員の方々と情報疎通を図っていただき、協会の効率的な運営に尽力いただきたい旨の挨拶がありました。



総会風景



懇親会風景

定時総会に先立ち岩本ITS開発センター長の講演が開催され、貴重なお話をお伺いしました。参加者の多くから大変参考になったと感謝されましたので、講習会の概要を掲載いたします。

岩本氏は、1988年4月に住友電気工業株式会社に入社、以来ITS関連の装置開発に携わり、古くはRACS(らっくす)、VICS、ETC関連の路側端末装置や車載機の開発に、近年はDSSS(安全運転支援システム)用の路側無線機や車両・歩行者感知センサの開発に従事。さらに、信号制御機・路側端末装置の開発に従事されました。

2012年4月より、(社)UTMS協会の標準規格委員会委員長に従事されておられます。

**講演の表題は
「安全運転支援・自動走行の時代に向けて」**

自動走行開発行程

- 1 単独のシステム 2 システムの複合化 3 システムの高度化
- 4 完全自動運転

自動走行の技術的背景

3つの技術要素・・・認知(センサー)、判断(人工知能)、操作(アクチュエーター)

支える技術・・・正確な自車位置の検知、高精細なデジタル地図、ITS先読み情報、路車間・車車間通信、自律センサー

路車協調による安全運転支援

インフラと車の協調を通じて安全運転支援を実現するシステムの研究開発・実用化がすすめられている。代表的なプロジェクトとしてDSSS(Driving Safety support system 安全運転支援システム)、AHS(Advanced Cruise-Assist Highway System 走行支援道路システム)がある。

路車協調と自動走行

SIP(戦略的イノベーションプログラム)の中で「自動走行システム」というテーマで研究開発がスタート

研究テーマ・・・自動走行システムの開発・実証、交通事故死者低減、渋滞低減のための基盤技術の整備、国際連携の構築、次世代都市交通への展開

まとめ

自動車交通による負の遺産の解消を目指して、自動走行の実用化研究は国内外で精力的に進められている。



講演会風景

26年度事業報告

【事業の概要】

- 交通信号施設工事技術の総合的研究
技術資料(工事編、保守編、設計編)の編纂、工事技術の標準化、交通信号工事施工ハンドブックの普及に取り組んだ。
- 交通信号施設工事に関する技術・技能研修事業
5月に全国5カ所で交通信号工事技術講習会を開催299名が受講した。
なお、この講習会は、交通信号工事士資格保有者の更新講習でもあり、この講習を受講すれば資格有効期限が5年間延長されます。
- 交通信号施設工事に関する技能検定事業
交通信号施設工事に従事する人材の育成と専門能力の向上を目的に創設された資格検定制度、本年度から受験資格の門戸を開放し8月3日全国一斉に検定を実施した結果、会員202名、非会員161名(うち警察職員19名)が合格した。
- その他の活動
 - 交通信号甲子園の開催(防災版、関東版)
今年度から新たに関東版を創設し、技術の向上と継承、工事仕様の差異の克服を目的として開催された。
 - 情報発信の取組
全信工ニュースを4回発行するとともに、ホームページの内容を充実した。
 - 会員拡大に向けた取り組み
理事長、副理事長、広報委員長、事務局長等が中心となり、8県を訪問し入会の勧誘をした結果、会員数は204となった。
 - 協会の意義・役割についての理解向上を図る取組
 - ・ 警察庁及び都道府県警察本部長に対する業務説明
 - ・ 防災協定の締結
平成27年3月17日、岩手県警察本部と災害協定を締結した。

【平成26年度収支決算】 単位:円

(収入)	
1 入会金	1,590,000
2 年会費	10,696,000
3 事業収入	7,007,333
4 分担金収入	375,000
5 雑収入	129,802
収入合計	19,798,135
(支出)	
1 事業費	5,988,413
2 管理費	6,980,601
支出合計	12,969,014
当期収支差額	6,829,121
前期繰越収支差額	12,576,955
次期繰越収支差額	19,406,076

【事業実施方針】

交通信号工事技術の向上と業界の健全な発展を図る目的で、この協会を設立し6年が経過しました。重点施策として、交通信号工事士技能検定の実施、技術講習会の開催、交通信号工事施工ハンドブックの編纂を鋭意推進してきました。防災協定は、三重県警察に引き続き、岩手県警察とも協定の締結に至りました。そして信号工事士の技術向上と災害時の応援に必要な仕様の徹底を図るため信号甲子園を開催しております。

今年度も引き続き、上記事業のほか信号工事士がより社会に認められるよう関係機関に働きかけてまいります。

【各事業の実施事項】

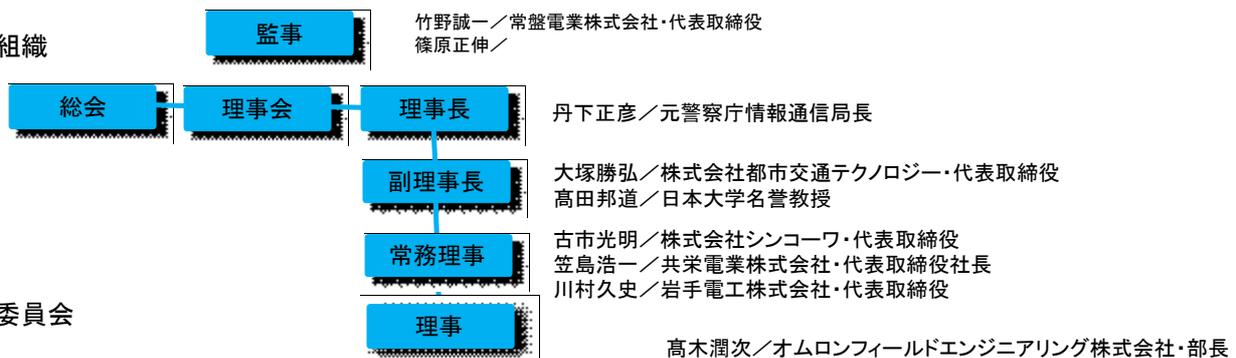
- 調査研究事業
 - 技術資料の編纂
 - 工事技術の標準化
- 調査研究成果の普及事業
 - ハンドブックを会員以外にも販売し、各種講習会等にも活用する。
 - ハンドブックの改定にこたえるための情報収集を行う。
- 技術・技能研修事業
 - 信号工事士更新講習会及び交通信号工事技術講習会を開催する。
- 交通信号工事士技能検定事業
 - 平成27年8月2日、全国8カ所で開催する。
- 協会の目的達成に必要な事業
 - 「災害時における交通安全施設の復旧に関する協定」に基づく対応
 - 会員の維持・拡大
 - ・ 広報活動(全信工ニュースの発行、ホームページの効果的運営、情報収集活動の推進)
 - ・ 会員募集活動の推進
 - 「信号工事甲子園」の開催
 - ・ 前年度に引き続き三重県での開催を防災版に変更し、関東版として今年度第2回を開催。
 - 喫緊の課題の解決
 - ・ 仕様、標準化、調達等の課題や問題点を検討整理して、その改善方策を行政関係者に働きかけ、改善を図る。
 - ・ 一般社団法人交通工学研究会と連携して、交通信号工事の社会的評価の向上に努める。

【平成27年度収支予算】 単位:円

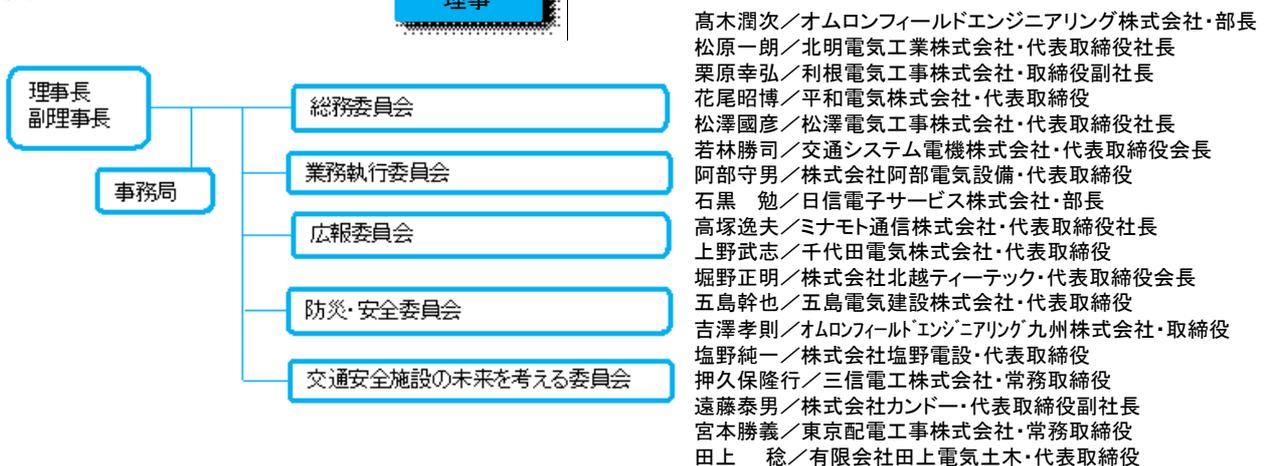
(収入)	
1 入会金	1,800,000
2 年会費	11,172,000
3 事業収入	5,630,200
4 分担金収入	500,000
5 雑収入	10,000
収入合計	19,112,200
(支出)	
1 事業費	10,260,000
2 管理費	9,023,100
支出合計	19,283,100
事業活動収支差額	△170,900
予備費	1,000,000
当期収支差額	△1,170,900
前期繰越収支差額	19,406,076
次期繰越収支差額	18,235,176

【協会の構成】

①組織



②委員会



交通信号工事甲子園(関東版)

平成27年5月20日、埼玉県児玉郡にある株式会社カンドー埼玉工場内において、「交通信号工事甲子園(関東版)」が開催されました。交通信号工事甲子園の目的は、交通信号技術の向上及び継承と災害時における復旧の遅れの原因の一つである工事仕様の違いの克服です。

関東版では、交通信号工事施工ハンドブックに準じ、信号柱(ベース式)の建込、信号ケーブルの配線及び結線、車両用・歩行者用灯器の取付及び結線、そして点灯確認までの工事内容で技術を競いました。

竹重防災・安全衛生委員長の開会の挨拶及び競技開始の合図により競技が開始されました。競技は、帯同の車両、工具を使用することにより、各社の特色が生かされ、参加業者や来賓の方々も熱心に見学されていました。

当日は暑い日にも関わらず、一人の事故や怪我もなく、無事終了しました。受賞チームは下のとおりです。

総合優勝	洸陽電気工事	安全性部門賞	春日電設(株)
総合準優勝	有限会社荒井電気工業	正確性部門賞	(有)デルタ電気
総合第3位	常盤電業(株)	アイデア部門賞	(株)塩野電設
		技術部門賞	利根電気工事(株)
		特別賞	埼玉ユニオンサービス(株)



競技風景



表彰式

交通信号工事甲子園(防災版)

平成27年6月1日、三重県菰野町(株)シンコーワ敷地内において「交通信号工事甲子園」が開催されました。平成23年度に三重県警察本部と締結した「災害協定」に基づく訓練の一環でもあることから競技は三重県仕様で行われました。

参加企業は、全国8社選抜により競いました。

来賓には、三重県警察本部交通部交通規制課長他多数参列されました。

丹下理事長の開会挨拶に始まり、五島電気建設(株)丸谷樹美夫選手の選手宣誓、そして竹重防災・安全衛生委員長の競技開始の合図により競技が開始されました。

競技は柱上間のケーブル架設工事及び結線、歩行者用灯器の設置工事及び結線、そして取り付けた部材の撤去工事を1時間以内で行い、安全性、確実性、迅速性そして班長の指揮能力について採点し、順位を競いました。

優勝は、京都府代表の五島電気建設(株)。内容が班長の指示が的確であったためでした。なお、その他の受賞チームは下記のとおりです。

優勝	五島電気建設(株)	安全性部門賞	(株)シンコーワ
2位	(株)光洋	正確性部門賞	(株)アイテック
3位	(株)デューイテクニカル	迅速性部門賞	(株)塩野電設
		創意工夫部門賞	中谷電気工事(株)
		特別部門賞	(株)アサヒ電設

最優秀班長賞	五島電気建設(株)	丸谷樹美夫
--------	-----------	-------



選手宣誓



競技風景

お問合せ先

〒130-0026 東京都墨田区両国二丁目1番4号
 一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会事務局
 TEL: 03-6659-3586 FAX: 03-3846-5582
 URL: <http://www.zenshinko.jp> E-mail: info@zenshinko.jp